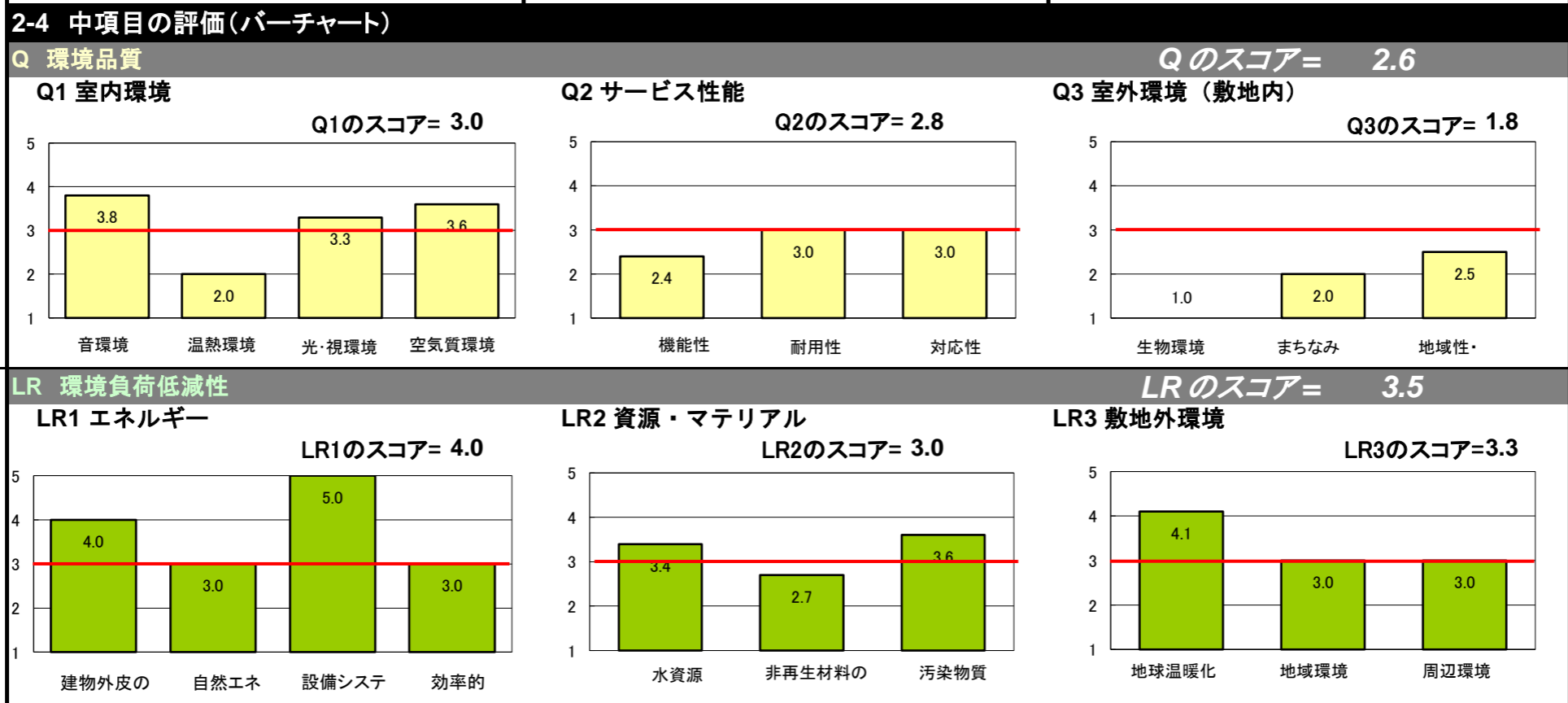
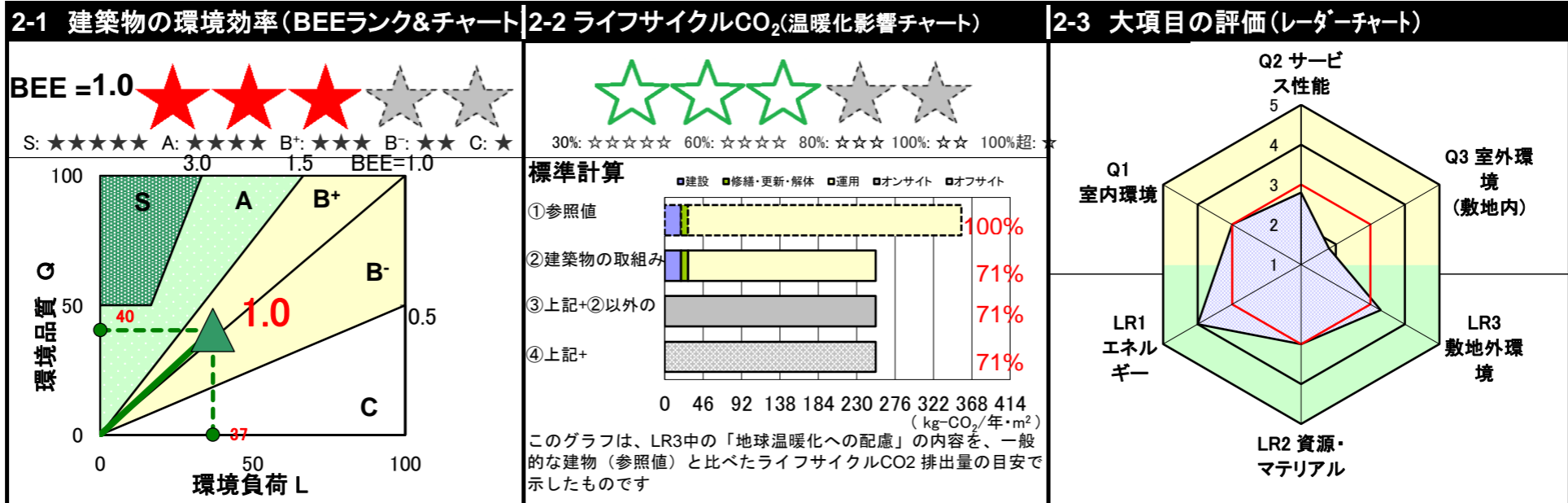
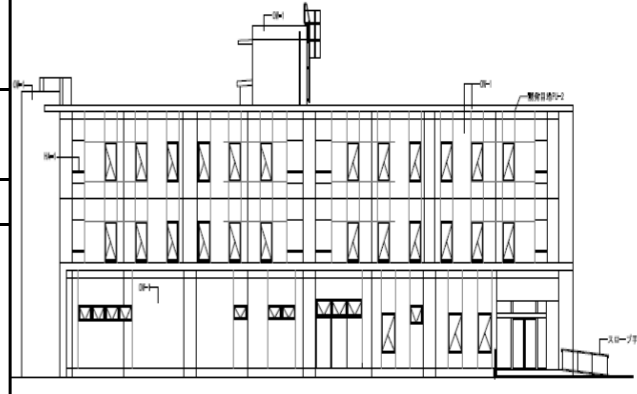


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	常滑支部選手宿舎	階数	地上3階
建設地	愛知県常滑市新開町4丁目111番地	構造	RC造
用途地域	商業地域・準防火地域	平均居住人員	94人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020/2/10
敷地面積	47,735 m ²	作成者	松崎 正志
建築面積	915 m ²	確認日	2020/2/17
延床面積	2,277 m ²	確認者	潮田 政明



3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.1</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体											
		Q 建築物の環境品質																			2.6				
Q1 室内環境																			3.0						
1 音環境																			3.8						
1.1 室内騒音レベル																			0.1	4.0	0.15	3.3	3.3	1.00	
1.2 遮音																			0.5	5.0	0.50		3.6	0.50	
1 開口部遮音性能																				5.0	1.00		5.0	0.30	
2 界壁遮音性能																				3.0	-		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																				3.0	-		3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																				3.0	-		3.0	0.20	
1.3 吸音																				3.0	-		3.0	-	
2 温熱環境																			2.0						
2.1 室温制御																			0.3	2.0	0.35	2.1	2.1	1.00	
1 室温																			0.5	3.0	0.50	3.3	3.3	0.50	
2 外皮性能																			3.0	3.0	0.63		3.0	0.63	
3 ゾーン別制御性																			3.0	3.0	-		-	-	
2.2 湿度制御																			3.0	1.0	0.20		1.0	0.20	
2.3 空調方式																			3.0	1.0	0.30		1.0	0.30	
3 光・視環境																			3.3						
3.1 昼光利用																			0.2	3.3	0.25	3.3	3.3	1.00	
1 昼光率																			0.3	4.2	0.30	4.0	4.0	0.30	
2 方位別開口																			3.0	5.0	0.60		5.0	0.50	
3 昼光利用設備																			3.0	3.0	0.40		3.0	0.20	
3.2 グレア対策																			0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30	
1 昼光制御																			5.0	3.0	1.00		3.0	1.00	
3.3 照度																			3.0	3.0	0.15		3.0	0.15	
3.4 照明制御																			3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境																			3.6						
4.1 発生源対策																			0.2	3.6	0.25	3.7	3.7	1.00	
1 化学汚染物質																			0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
4.2 換気																			0.4	3.0	0.40	3.3	3.3	0.38	
1 換気量																			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能																			3.0	3.0	-		4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮																			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理																			-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視																			3.0	3.0	-	-	-	-	
2 喫煙の制御																			3.0	3.0	-	-	-	-	
Q2 サービス性能																			2.8						
1 機能性																			2.4						
1.1 機能性・使いやすさ																			0.4	2.4	0.40	2.6	2.6	1.00	
1 広さ・収納性																			0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応																			3.0	3.0	-		3.0	-	
3 バリアフリー計画																			3.0	3.0	-		3.0	1.00	
1.2 心理性・快適性																			0.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40	
1 広さ感・景観(天井高)																			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース																			3.0	3.0	-		-	-	
3 内装計画																			3.0	1.0	1.00		1.0	0.50	
1.3 維持管理																			0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計																			3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保																			-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性																			3.0						
2.1 耐震・免震・制震・制振																			0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																			0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能																			3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数																			0.3	3.2	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数																			-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																			-	2.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																			-	5.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																			-	3.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																			-	5.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔																			-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性																			0.1	3.0	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備																			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備																			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備																			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法																			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備																			3.0	3.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.2	3.2	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.4	3.4	0.50	
1	階高のゆとり	専用部分: 階高3.2m。	-	3.0	-		5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	-		1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		②	1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		住宅部分: 等級4相当である。	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=0.68。	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		衛生器具に節水コマが付けられている。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS使用している。	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	-	4.1	0.33	-	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 常滑支部選手宿舎

計画上の配慮事項	
総合	耐用年数の高い内装材料を採用することで、ライフサイクルコストの低減に努めている。
Q1 室内環境	開口部遮音性能:T-2。そして、住宅部分:等級4相当である。共用部分: $2.5\% \leq$ [昼光率]、専用部分: $2.0\% \leq$ [昼光率]。また、F☆☆☆☆を使用している。
Q2 サービス性能	耐用年数が高い内装仕上げ材と高い給排水配管材を使用している。専用部分:階高3.2m。
Q3 室外環境(敷地内)	建物高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・塀等の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。
LR1 エネルギー	住宅部分:等級4相当である。BEIm=0.68。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具に節水コマが付けられてる。そして、LGS使用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して71%。
その他	特になし。